

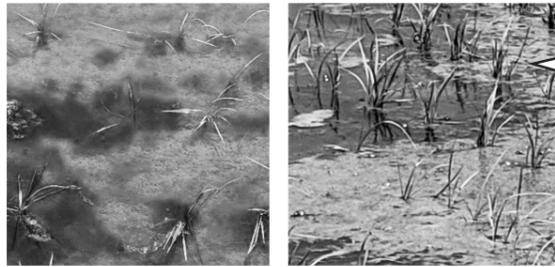
# 第4号 稲作管理特報

令和7年5月19日  
朝日町  
黒東地域農業技術者協議会

収量・品質を安定させる第1歩は、『初期生育の確保から!』です。  
まずは、**浅水管理**を徹底し、分けつの発生を促しましょう。  
次に、**田植え後4週間までに中干しを開始**し、夏の高温に耐えられるしっかりとした「根づくり」に取組みましょう。

## 1. 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

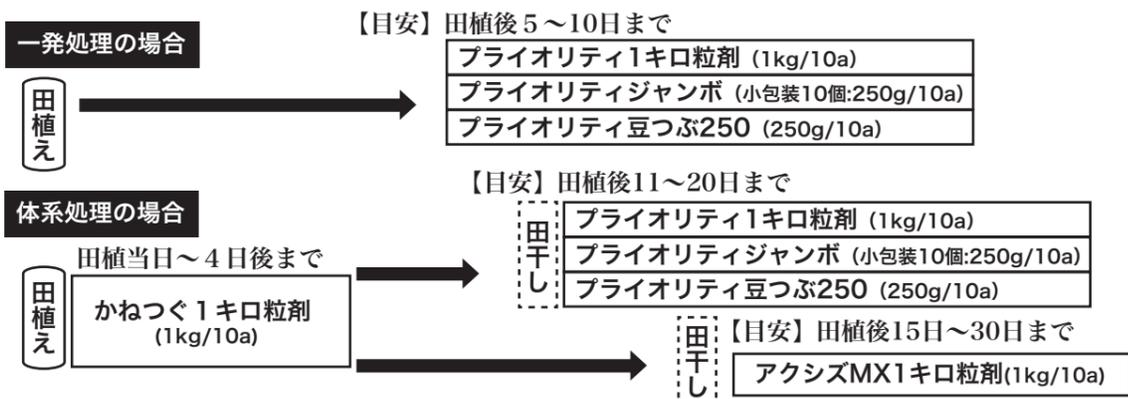
- ・活着後は、水深3cm程度の浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・入水は早朝か夕方に行い、日中は止水で田水温の上昇に努めましょう。
- ・強風や低温時には水深5cm程度の深水にし、天気回復後は浅水管理に戻しましょう。
- ・藻が発生している場合は、水の入れ換えを行きましょう。また、ガスが湧いている場合は、1～2日程度の軽い田干しを行きましょう。



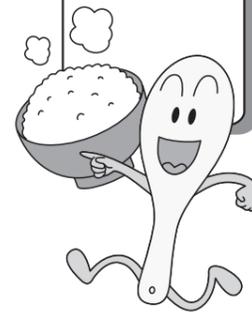
大量発生した藻は、苗に絡みついてなぎ倒したり、日光を遮ることで水温や地温が上昇せず初期生育が遅れるだけではなく、除草剤拡散を抑えることになり除草の効果にムラが生じる恐れがあります。  
※こまめな水管理で藻の発生を防止しましょう。

## 2. 除草剤散布 ～散布後5日間は湛水状態を保つ～

- ・気温が高いと雑草の生育が早まるので、薬剤毎の散布目安を参考に、遅れずに散布しましょう。
- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ちましょう。田面が見えてきたら、薬剤の処理層を壊さないようゆっくりと入水し、散布後7日間は落水しないでください。
- ・2回目の除草剤散布前に1～2日程度の軽い田干しを行い、藻を除去し、除草効果を高めるとともに、根に酸素を与えましょう。
- ・藻や表層剥離の多発ほ場では、ジャンボ剤や豆つぶ剤の使用は避けましょう。



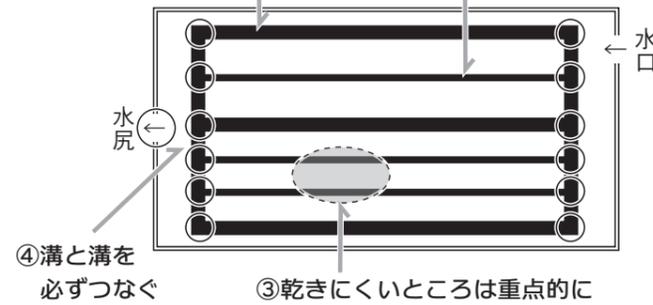
『溝掘り・中干し』は適期を逃さずに行い、しっかり根を伸ばそう！



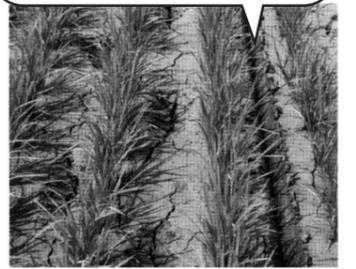
## 3. 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- ・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。
- ・溝は5mに1本を目安に掘り、ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘りましょう。また、掘った溝は、水尻まで確実に連結しましょう。
- ・粘質土や排水不良田は、額縁排水溝も掘りましょう。

②額縁と中央の溝はしっかりと ①5mに1本を目安に



軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘ると、溝がしっかり残ります！



### 《溝掘りの効果》

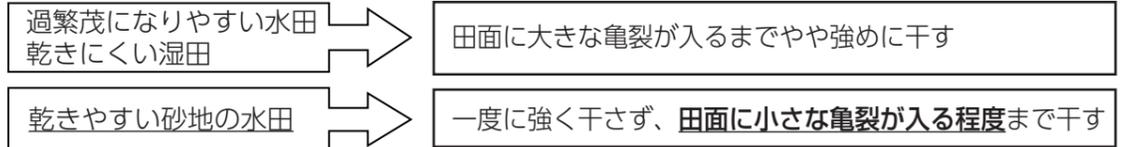
- ・ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ・間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

## 4. 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

- ・中干しは、晴れ間を見極めて田植え後4週間以内に開始しましょう。

### 『中干しの程度』

- ・中干しは5～7日間程度行い、田面に小さな亀裂が入り、“足跡が残る程度”まで干しましょう。



### 【中干し開始日の目安】

田植日	中干し開始日
5月10日	6月7日頃
5月15日	6月12日頃
5月20日	6月17日頃



足跡が残る程度 【中干し終了頃のほ場の状態】

ただし、『干し過ぎ』は、稲の生育にダメージを与えます。数回に分けて適度に田干しを行きましょう！

※稲の葉色が濃く、過繁茂気味の田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。(ただし、週に1度は軽く入水する。)

### 【配信される主な内容】

- ・営農メール：水稻栽培情報、気象・災害情報
- ・LINE：稲作管理特報などの各種特報



営農メール



LINE

## 春の農作業安全運動 (令和7年3月～5月)

・あみな穂 営農センター ☎ 74-2440 ・あみな穂 あさひ支店経済課 ☎ 83-3212  
新川農林振興センター農業普及課 ☎ 52-0094